



指扇中だより



～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

『萌黄色のスナップ』



校長 おお ころ うち のり かず
大河内 範一

私の2年間の教頭人生は「小学校」だった。ずっと中学校で教育活動をしていたので、とても貴重な体験だった。当時の光景を記したものが残っているので、ちょっと紹介したい。

1年生 生活科の授業で児童から取材を受けた。取材時間を大幅に延長し、自分の過去から私生活に至るまで赤裸々に語ったのだが、「ちゃんと覚えてるの？」と児童に確認したところ、『好きな食べ物はチョコレート』しか覚えてない…。と悲しそうな顔で言っていた。

2年生 図工の授業に粘土で作品をつくった。男児が「口から炎を出す怪獣をつくるんだ！」と張り切っていたものの、あまりにも大きな炎にしてしまい、重量がありすぎて頭が下に垂れ、太い炎が地面に付いてしまった。それを見た隣の児童が「気分が悪くなって吐いているみたいだ…。」と真顔でつぶやいていた。

3年生 図書室から出てきた児童との会話。「教頭先生、うんこの本を借りました。」「へえ、うんこ好きなの?」「はい。」「へえ、そうなんだ、よかったね。」もう少し教育効果のある言葉掛けができなかったものかと深く反省した。

4年生 教室で一緒に給食を食べた時、「校長先生になると、検食という昔の『お毒見役』みたいな仕事があって、みんなより先に食べるんだよ」と話したところ、「学校でもし毒が盛られたら犯人がすぐに特定される」「校長先生を狙うとしたらいったい誰なのか」などと勝手な推測が展開され、大騒ぎになってしまった。

5年生 「館岩自然の教室」に引率で行った際、私が持っていた資料を覗き込み、漢字で書いてある私の氏名を見た児童から、「教頭先生の名前は『おおかない』っていうんですね!」と嬉しそうに話し掛けられた。

6年生 図工の授業で版画を教えていた時、一人の児童がなぜか版画絵の具を縦に大きく振ったところ、床から壁に掛けて一直線に飛び散ってしまった。「学校でスプラトゥーンだ!」と、児童たちは大喜びだった。

さいたま市では、小・中学校間の円滑な接続を図るために、平成24年から「小・中一貫教育」を推進してきた。本校も「推進モデル校」として取り組んでいた時期があり、とてもよい成果を上げている。前述のエピソードを読むと、小学生のあどけなさや無邪気さを感じられ、ある意味微笑ましく思える。そして、中学生の君たちを見ると、子どもから大人へと着実に成長しているんだなあ、とつくづく感じる。新時代を、この未来を、世界中全部を変えていくのは君たちだ。